

うち取二の合戦の誉柄あり。伊藤矢捕と闘一緯。自軍第一の功なり。且今川家の威風とゆづく。関東へ响くせうとて。五百貫と加増せらる。是僉藤吉郎高吉が功勞ありぬれども。陪居の身あるとめて。主人松下ふの賜賞ありて。高吉おけぬ。然るも中村高吉ハ。和睦と熟談機會ふつけ。甲府の両士と窺ふ。武田の軍師山本入道。道鬼齋ハ。材縫とて。趁蹠あり。まて眼ハ一片瞽とす。山縣三郎兵衛昌景ハ。大材あれども。鬼口あり。武田ふこれらの勇士あること。見ぬ。今天までハ。鬼神より。猶猛とんと思ひ。か。噫笑止あり。躰具とらむ。然まねハ。我ハ。縫生めて。顔色猿ふ像とすとも。五體ハ。関する所ありね。よも。勘助あり劣る事。先這上ハ。智と磨碌。天小美名と夷せん。初て大志と起せん。實天然の名將あり。又

松下ハ。睦と既たり。遠州濱名ふら。還り。加増の緯ども。悦逢て。半月許とこ。けら。這遭藤吉高吉。を双の挿あり。不依て。不時の加増と得る。緯。高吉が既るところ。今日より。子と。我子の如く。懐ふまねハ。松下の氏と既之。然して。永く縁と結ん。子の心ハ。那何あぞと。尋ねハ。藤吉と。又。誠ハ。冥加あり。然とも。匹夫の基ハ。松下の氏と既る。緯。朋輩の所思との。諸人の妬も。あべければ。容易。清奉あり。さ。あ。謀き。清芳志めて。謀下さる。清惠と。辞退して。も。憚り。あ。小所存と。わ。あ。清承地。あ。有。と。の。小。之。類。小。類。と。願。け。所。存。と。の。之。那。何。有。緯。と。然。侍。方。僅。既。さ。る。清。名。氏。と。在。の。信。ハ。殊。領。あ。さ。先。子。も。稟。も。混。雜。あり。啼。く。ハ。松。の。字。の。偏。の。を。用。ひ。て。木。下。と。氏。と。革。也。

豊臣記初編卷之二

二十一